

Title	二度の改元を知らぬ釣鐘
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1923
Jtitle	史学 Vol.2, No.3 (1923. 5) ,p.80(386)- 80(386)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19230500-0080

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

二度の改元を知らぬ釣鐘

二三日前銚子町に遊び、有名な飯沼觀音(銚子觀音とも云ふ)に参詣した。同觀音は同所海中より出現したと傳ふるもので。利根川圖志に『飯沼觀世音、飯沼圓福寺十一面觀世音坂東二十七番二王門、鐘樓、石垣、本堂の額圓通殿得水書、二重塔、龍藏權現銅瓦、石華表あり、境内に見世物、輕わざ、しばる其外茶見世多く、至て賑はし』と見え、聽く處に據れば觀音堂は天正年間の建立、多寶塔は寶永年間の再建、二王門と共に孰れも赤塗であり、又境内に本尊と共に海中より出現したと云ふ龍藏權現の祠(今日は神社)並に寶永六年建立の大露佛等がある。觀音堂の隣に圓福寺があるが、新義眞言の可り大きな寺で、こゝに次に享徳十一年の銘ある珍しい古鐘がある。口經一尺六寸六分(口邊の厚共)、高さ三尺余(ノ)

敬白、於上總國菅生庄本郷、飯富宮社頭、奉再興鑄鐘一口。殊覺明神五睡、別祈天長地久、須願四恩報謝、宜爲法界平等。享徳十一年壬午十二月十五日、勸進主工文代泰胤(カ)、吉徳、惣政所泰副、大旦那前三河守清副別當永尊。兩大工河内櫻守光吉、貞吉、神主貞久、十三人御百姓等、敬白。

と四方に刻銘あるが、享徳十一年壬午は後花園院天皇の寛正三年壬午に當り、其間に長徳寛正二度の改元を知らなかつたものと思ふ。其の鐘の形、文字より見て別に後世の造りものとは思はれぬ(菅生は木更津の東)又同寺には絳紙金字の詳校正本慈悲道場懺法卷第九(折本)があるが、これは弘化三年に寄附したもので、其の絹書に藤堂家々臣高橋神内なる者が、朝鮮碑に於て得たものと記してあつて、珍らしいものである。なほ建武康安明徳應永永享等の古文書十八組、同觀音の縁起(明暦二年)血書三千佛名(寛文七年)鳳足の硯、光闇の寄附と傳ふる鉈等がある。大正十二年四月十七日武田勝藏記)